

研 究 結 果 報 告 書

台湾日本語関係学科における日本地理の授業の現状と課題：日本語学習者のニーズとコースデザインの観点から

所属：銘傳大学 応用日語学系

役職：副教授

氏名：林 玉恵

台湾交通部観光局の統計によると、ここ 10 年日本へ出掛けた台湾人は海外へ行った総人数の 10～15%を占め、そのうち観光を目的とするものが 9 割を占めるという。それゆえ、台湾日本語関係学科にとって、日本各地に関する基礎知識を学ぶ授業である「日本地理」は重視されている。したがって、本研究では台湾日本語関係学科を対象にし、日本語教育現場という視点から、日本地理の授業の現状および課題をまとめ、日本語学習者のニーズに応えながら、コースデザインを考えることを目指す。具体的には、教育部大学院校課程資訊網における日本地理の開設状況を調べ、学生へのニーズアンケート調査を行い、台湾日本語関係学科における日本地理の授業の現状と課題を考察した。本研究の研究成果は、以下の 5 点にまとめることができる。

- (1) 88 学年度から日本地理関連の授業は開設され、現在に至る計 16 年間実施されており、その日本地理関連の授業科目名は「日本地理」が最も一般的であるが、異なる名称も少なくないこと。
- (2) 「応用日語（学）系」は「日本語文（学）系」より、積極的に日本地理の授業を開設している傾向が見られること。
- (3) 日本地理授業を履修する学習者のうち八割以上が「希望更加了解日本，習得日本相關知識」（日本のことをもっと知りたい、日本関連知識を獲得したい）を履修動機としていること。
- (4) 全体的に言えば、日本地理の授業は学習者から高い支持を得られていること。学習者のニーズとしては、授業の進め方、興味がある授業内容のバリエーションの豊富さ、授業の時間数、教室設備関連の問題、授業担当者自身の問題（講義のスピードの速さ・声の大きさなど）などが挙げられること。また、個人的な意見（開講する授業の時間帯、試験やレポートを減らしたい、教科書を買いたくない、日本への旅行がしたい、日本のお土産が食べたいなど）もあったこと。なお、担当教員自身による旅行体験や各地で撮った写真閲覧も人気があった。
- (5) 日本地理のような選択科目では、学習者の多様性に対応した選択肢を提供することが必要とされること。これらの授業は学習者への情報提供、学習者の多様性を吸収する柔軟なカリキュラムを考案する必要があること。

研究成果の公表について

口頭発表 （題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

なし

論文 （題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

林玉恵（2015.12）「台湾日本語関係学科における日本地理の授業の現状と課題—日本語学習者のニーズの観点から—」『台湾日語教育學報』25 台湾日語教育學會 pp. 375-404
ISSN 1993-7423

書籍 （題名・著者名・出版社・発行時期等）

なし

